委員会視察成果報告書

令和８年１０月１５日

犬 山 市 議 会 議 長

議員名　光　清　　毅

下記のとおり、視察の成果を報告いたします。

(1) 視察年月日	令和８年１０月６日(火)～令和８年１０月７日(水) １泊２日
(2) 視　察　地	兵庫県三木市・兵庫県姫路市
(3) 視察の種類	常任委員会（民生文教委員会）
(4) 視察成果 (視察地ごとに記入)	別紙のとおり
(5) 犬山市に対する提言	別紙のとおり



成果報告書別紙

◇兵庫県三木市　（面積：176.51㎢　人口：70,422人）

学校の在り方及び再編検討について

○視察成果

・三木市では、平成２９年から「学校再編検討会議」で検討した結果を受けて、令和元年に「三木市立学校の再編に関する実施方針」を策定し、学校規模や児童生徒数の推移を踏まえた将来の学校の在り方を整理している。

・策定当時は、再編後の姿を示す参考として「再編５校区案」提示していたが、その後状況の変化が生じたことから、方針の一部を改定し、「再編５校区案」は削除された。
将来的な学校の在り方については、今後の動向を踏まえ、改めて検討を進めていくこととしている。

・保護者や地域住民との合意形成にあたって、総合教育会議において学校再編の課題を共有した後、市内全地域で意見交換会を行っている。その際に、各組織の代表者等を中心に事前に丁寧に説明し、理解を得るための機会を十分に確保することに努めてきた。

・また、同市では、これまでの小中連携教育の実践を基盤としながら、９年間を見通した「めざす１５歳の姿」を小・中学校で共有し、小中一環教育を推進している。
具体的には、吉川地域における施設一体型小中一貫校構想に基づき、基本計画を策定をして、新学校を整備し、令和１２年度の供用開始を予定している。なお、同市として、新学校において初めての特認校制度を導入することを検討している。

○犬山市に対する提言

・三木市とは、人口は同じ規模であるが、面積が２倍以上あり状況が違っているが、将来の児童生徒数の減少を見据えた、学校の在り方は共通の課題であり大変参考になった。

・子どもたちが、学校生活の中で、多様な考えに触れ、お互いに切磋琢磨しながら、学力・学習意欲を高め、心と身体の健やかな成長するためには、一定の集団規模が必要と考える。

・そのため、犬山市においても、将来の子どもたちのために、学校の在り方（適正規模・適正配置）について、まずは議論する体制づくりに取り組むことを提言していきたい。

成果報告書別紙

◇兵庫県姫路市　（面積：534.63㎢　人口：516,285人）

予防接種・乳幼児健診のデジタル化について

○視察成果

・デジタル化導入にあたっては、紙受診の問題があった。（①記入にかかる保護者負担　②結果把握までに時間を要する　③受診結果のデータ化にコストが必要　④保管場所の確保・管理リスク）

・デジタル化の課題としては、①人件費や関連費用などの高騰によるコストの増加　②デジタル化に対応できる職員能力が十分でないこと　があったが、コスト面については、国のデジタル田園都市国家構想交付金（２／３の補助）を確保することができた。また、保健部局だけでは対応が極めて難しいため、デジタル部局が伴走支援することにより進めた。

・導入スケジュールとしては、令和５年４月に国の補助金決定以降、同年９月に母子健康手帳アプリを導入、医療機関向けの説明会を実施して、令和７年１月に小児予防接種デジタル化を、同年１０月に乳幼児健診デジタル化を実施した。

・現在の利用状況は、乳幼児健診が６７．２％、予防接種が４５．９％となっているが、徐々に利用者割合は増えている。

・課題としては、①紙とデジタルの併用による事務の煩雑化　②デジタル化に対応していない医療機関への対応　③母子健康手帳アプリ未使用の市民への対応　④ＰＭＨ連携ができていない　⑤電子版母子健康手帳への移行　がある。

・今後の方向性としては、①市民にとって利便性が高いシステムの構築　②デジタル健診対応医療機関の拡充　③ＰＭＨ連携、電子版母子健康手帳へのスムーズな移行　があげられる。

○犬山市に対する提言

・現在、犬山市においては子育て応援アプリ「ＭａＭａたす」によって、予防接種のスケジュールなど情報提供しているが、今後は市民の利便性を高めるため、姫路市のようにスマホなどを使って問診票を提出できるようにデジタル化を進めてもらいたい。

・デジタル化導入にあたっては、対応する職員体制を整えるとともに、国の交付金を活用して初期費用を押さえるように検討してもらいたい。